

治験を実施しています



現在、開発中の医薬品の候補（治験薬）を用いた治験を、以下の病気を対象に実施しています。参加いただいた患者さんにおけるデータを集め、有効性や安全性を確認して医薬品としての「承認」を得ることが治験の目的ですが、参加いただいた患者さんにとって良い効果をもたらす場合もあります。まずは、よく情報を得ていただきたいと思いますので、**お気軽にお問い合わせください。**

- 慢性血栓塞栓性肺高血圧症
- 肺癌
- 全身性強皮症を伴う間質性肺炎
- 多発性骨髄腫
- 悪性リンパ腫
- 骨髄異形成症候群
- 脳卒中後下肢痙縮
- 脊髄小脳変性症
- 食道癌
- 腎癌
- 前立腺癌
- 尿路上皮癌
- 過活動膀胱
- 神経因性排尿筋過活動
- 術後疼痛
- 子宮頸癌
- 金属アレルギー

ご協力
お願いします。

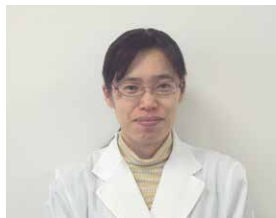


問合せ:

臨床試験管理センター
tel.088-633-9294

ちけん君は
日本医師会
治験促進センターの
キャラクターです。

病院のお仕事いろいろ



食事を通じた患者さんの
生活の質の向上を目指して

がん病態栄養専門管理栄養士
栄養部

鈴木佳子(すずき・よしこ)さん
栄養管理部門長

鈴木栄養管理部門長は、入職時より患者さんの栄養指導や、栄養サポートチームでの栄養管理に携わっています。がん患者さんは、病気や治療に伴う影響のほか、腎臓病や糖尿病などの持病や、複数の要因が重なって栄養状態が悪くなることが多く、専門の知識が必要と考え、がん病態栄養専門管理栄養士の資格を取得しました。

がん患者さんの化学療法の副作用として第一に食欲の低下があります。「食べられない」ということは、患者さんにとって大きな苦痛でもあるため、徳島大学病院では、「食べられた」という喜びに繋がるよう食事を工夫しています。

食欲不振時には、食事量を減らし、エネルギー補給のために栄養価の高い飲み物などを間食・補食としてとり入れ、嗜好の変化には、味付けの工夫や冷たいメニューをとりいれることで対応しています。その他の副作用として「砂を噛んでいるよう」や「舌がピリピリする」といった味覚異常も多くあります。症状は一人一人異なるため、食べられるものを聞きながら一緒に見つけていきます。栄養サポートを行った患者さんが、「食事がおいしかった」「食事が食べられるようになった」と聞くと安心し、同時にやりがいを感じるそうです。

今後の目標としては、「がん治療には、体力が必要で十分な栄養を摂ることが重要。病気の初期の段階から栄養の大切さを説明し、患者さんの生活の質の向上に携わっていきたい。」とお話いただきました。